

「情報アーキテクトをめざして」

情報基盤システムデザイン研究部門

情報基盤システムデザイン研究部門は(1)情報基盤システムのアーキテクチャデザインの研究と(2)大規模情報基盤システムの研究開発を研究の柱として、名古屋大学の情報戦略の企画・立案・実施に積極的に貢献しつつ、学内外のユーザに対して実際に情報基盤サービスを提供



間瀬健二 教授

することを目的とする部門です。

「情報基盤システムのアーキテクチャをデザインする」と言っても、情報のやり取りの媒体であるコンピュータネットワークを設計することが主目的ではありません。もちろん、コンピュータネットワーク抜きには語れませんが、コンピュータネットワークによって作られる電脳空間において我々人間が快適に活動するためにはどのような情報基盤システムを構築すべきかを考え、設計し、実現するかが、我々の部門に課されている最大の使命です。建築家は、我々人間が日々生活している実世界空間において、古い建物や他の建物との調和を図りながら、便利さ・快適さを追及し、安全で安心した生活

ができる建築物をデザインします。これと同じように、電脳空間においても他の情報システムやレガシーアプリケーションシステムとの調和が図られるとともに、安全で安心した生活ができる情報基盤システムをデザインすることが必要性になってきています。情報システムはその技術的レベルの高さよりも、実際に使う人に対してどれだけ配慮がなされているか、便利に使えるかがとても大切になります。我々は、名古屋大学という巨大な知的集合体の中で日々教育研究活動に邁進されている学生、教職員などの構成員にとって、安全で快適な教育研究活動ができる情報基盤システムの設計・実現を目指しています。この意味において、我々は電脳空間における建築家、つまり、「情報アーキテクト(建築家)」になろうとしているわけです。



梶田将司 助教授

具体的には、センターの大学ポータル専門委員会を中心に「名古屋大学ポータル」の構築を目指しています。名古屋大学ポータルは、学内に散在する情

報システム・情報資源を集約 (aggregate) し、情報チャネルという細かい単位でユーザに提供することで、ユーザごとに適切な情報を提供することを目指しています。また、名古屋大学ポータルは単なる情報へのアクセスのポイントとなるだけでなく、学部、学科、研究室、教室、研究グループ、部活・サークル、講義など各人が所属するさまざまな学内コミュニティにおける他のメンバとのコラボレーションを促進する場としても機能します。活動の中心である大学ポータル専門委員会は、附属図書館、情報メディア教育センター、医学部、事務局（総務部企画広報室、経理部情報処理課、学務部学務課）、情報連携基盤センターから関係する方々に委員またはオブザーバとしてご参加いただいております。6つのワーキンググループに分かれて、ポータルの設計をはじめ、部局へのヒアリングやコンテンツやニーズの調査を行っています。すでに、デモンストレーション用のポータルも立ち上がっており、4月からの試験運用開始を目指して着々と準備を行っています。



平野靖 助手

当研究部門のスタッフは、教授（間瀬）、助教授（梶田）、助手（平野）の3名です。間瀬教授と平野助手は、画像情報処理が専門の名古屋大学工学研究科情報工学専攻鳥脳研究室の卒業生、梶田助教授は音声情報処理が専門の同電子情報学専攻板倉研究室の卒業生ということもあり、デジタル信号処理を基礎としたパターン処理の専門家が集まっています。デジタル信号処理は、実空間と電

脳空間を結びつける大切な技術です。例えば、名古屋大学ポータルにアクセスしているユーザがどこからどのような状況でアクセスしているのかに関する情報をカメラやマイクロホン、各種センシングデバイスから得、デジタル信号処理技術を駆使して処理することにより、ユーザの利用状況に合わせた情報提示が可能になります。我々は、デジタル信号処理技術をコアテクノロジーとした実空間と電脳空間のインタフェースを持つ名古屋大学ポータルを構築すべく、研究活動を行っています。

14年秋には、21世紀COEプロジェクトとして「音声・画像による知的統合（代表：末永教授，名古屋大学工学研究科計算理工専攻）」が採択され、15年度からは情報科学研究科（仮称）の協力講座として学部生および大学院生の教育活動にも携わることになる予定です。我々の研究部門もCOEのメンバとして他の研究グループと連携しながら学生ともども積極的に研究・開発活動を行って参ります。

今後ともよろしくごお願い申し上げます。



名古屋大学ポータル

（かじた しょうじ：情報連携基盤センター情報基盤システムデザイン研究部門）